

20周年記念 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

グループ名	女性と防災の会
開催日時	令和2年2月16日（日）10時～12時30分
テーマ	「災害発生！避難ルートを考える」 避難開始3分後が見える 逃げ地図 を体験しよう
形式	ワークショップ
講師等	公益社団法人 高知県建築士会 女性・青年委員会 有志
参加人数	合計 34名（女性 19名，男性 15名）
実行委員数	合計 9名（女性 9名，男性 0名）

〈内容〉

- ・公益社団法人 高知県建築士会の方より、逃げ地図作りの概要や目的、高知県での作成事例の紹介などをいただいた。
- ・今回は津波からの避難をテーマに、設定条件（昼、夜、車椅子等）の異なる6班にわかれ、垣生地区の地図を使って逃げ地図作りを行った。逃げ地図作りでは、危険箇所の確認、設定条件に合わせた避難場所の選定、地図への色塗りの順で作業を行った。
- ・最後に、各班で振り返りの話し合いから出た気付きや意見を作成した地図と一緒に発表した。
- ・休憩時間には、天然酵母種を使用する等により安全においしく食べられる賞味期間の長いロングライフパンやドライフルーツ、乾燥野菜など災害時に役立つ食品の紹介や試食を行った。

〈参加者の声〉

・地域内の危険場所とか、どれくらいの時間がかかるのかがはっきりするので良かった。

（60代女性）

・自宅近くの避難ルートを再度見直す必要性を認識した。身近な問題であり、防災活動に興味を持たせるきっかけとなるのではないかと思う。

（70代男性）

・地図上で広い範囲を見渡すことで危険な場所や場合、避難する人のタイプにより問題点がいろいろ違ってくることがよく分かった。（50代女性）

・避難所に近くても条件によっては行けないなど、考えることが多かった。（10代女性）

・自分の地域で逃げ地図を作りたいと思う。（60代男性）



〈まとめ〉

避難所までの経路や所要時間が見える化されることで、意外な場所が避難に時間がかかることが分かった。また、班ごとの地図を比較することで、条件が異なると避難先や避難にかかる時間が異なることにも気づいた。

今回は地域や年代、性別の異なる方でグループを作りワークショップを行ったが、活発に対話が行われ、気づきや意見を多く得られた。今後も楽しみながら学べる防災学習を展開したい。